

## 『幸せを運ぶ青い鳥』

## 航空自衛隊、一般曹候補生として入隊予定者の感想文

## 厚木募集案内所より入隊予定 井上 昂規

私が自衛官になると決意したのは人間航空祭でした。中学の頃に駅のホームに貼ってあった航空祭のポスターを見て興味本位で行きました。私には身内や知人に自衛官はおらず、そんなイベントがあることも知りませんでした。初めて行った航空祭では、まず人の多さに圧倒されて後ろ側にいましたが、空を自由自在に飛ぶブルーインパルスはしっかりと目に焼き付きました。正直、一瞬で鳥肌がたちました。当時の私には自衛隊というのは、子供から見た特撮ヒーローのような「なれたらカッコいいだろうな」という感覚でした。でもその一瞬のうちに「絶対ここに入ろう、自衛官になろう」という衝動が起きたのです。それ以来、目を輝かせて自衛隊のことばかり調べていました。

ある夏、私は地元のお祭りでは自衛隊の募集案内所のテントを見つけ、今の担当官さんと出会いました。自衛隊の入隊の制度や試験など詳しくわからず不安を抱えていた私に、いつも丁寧に教えてくれるし積極的にイベントも紹介してくれました。多分学校のテストと重なったとき以外は全て参加したと思います。今思い返せば貴重な体験ばかりで、その一つ一つが私に良い刺激を与えてくれました。その中でも館山基地での体験入隊は印象的でした。どんな場所でもどんな生活をするのか、身をもって体験できたことは自分にとってとても大きなものでした。最初は他県の知らない人、それも年上や年下の人などおいて自分は大丈夫かな？と思いましたが、皆、同じ志をもった人たちが話しやすく、案外すぐ打ち解けられました。夜になって、ベッドメイキングをしましたが、慣れてないと一人でやるのもなかなか大変でした。ねじれてしまっただけで、また最初からなんてことも。そんな些細な場面でもお互いに協力して2人で協力するということが初日でみんな自発的にできました。全員の方が終わった頃には、なんだか心温かくなりました。体験入隊だったので全体的に優しい内容ではありましたが、いざ入隊したら厳しいことはたくさんあると思います。でもだからこそ、同期たちと共に乗り越えたと心の中で少し期待しています。

自衛隊は非日常の世界で、わからないことだらけでしたが、様々なイベントに行ってみることで得られるものは、不安で悩んでいるときはそれを自信に変えてくれるし、そうでないときにはより一層固い意志にしてくれました。私の学校は農業高校だったので学力では普通科の高校より遅れているし、他の学校の生徒が鉛筆を握っているときに私はほうきやスコップを握っていました。3年になれば選択制で、英語をとった私は数学がとれず、勉強面ではかなり大変でした。でも自衛隊に入りたいたいという強い気持ちを持ち続けられたことで勉強もまったく苦ではなかったです。勉強自体は好きではありませんが、「この勉強は自衛隊に入るための勉強だ」と思うだけでなんだか楽しかったです。都合がいいのかなんとか...

私には同じ学校に自衛隊を目指していた友人がいました。その友人はもとも海外の子供たちを支援する団体に入るのが夢だったそうです。その話にも感銘をうけ、興味がわくようになっていました。自衛隊は海外派遣の実績もあり、自分もそのような活動を調べている中、目に止まったのは、航空自衛隊の水色塗装のC-130という機体。この機体は派遣先で地元の人から「幸せを運ぶ青い鳥」と呼ばれていたそうです。そのとき、自分が将来この機体に乗って、派遣先の人たちを笑顔にできたら、なんていいだろうと思うようになりました。そんな思いを抱きながら調べてく中で、輸送機に搭乗し、機体の重心を計算したり、用途によって内装を変えたりするロードマスターになるうと思いました。パイロットになれたらそれはもちろんいいですが、学力的、身体的にもきつかったのは事実。だからといって妥協したわけでもありません。私は、互いに支え合っている職種一つ一つが必要不可欠だと感じているので、どの職種も魅力的です。

そして私は、一般曹候補生と自衛官候補生を受験しました。最初から最後まで、とにかく緊張していましたが、自分が自衛隊の試験を受けているということにすら、感動してしまいました。そして努力の甲斐あって両方合格し、今年の春、晴れて一般曹候補生として航空自衛隊に入隊します。同じく自衛官を目指していた友人は、途中で諦めてしまいましたが、海外で人を笑顔にしたいという友人の思いも背負って、いつしか自分も「幸せを運ぶ青い鳥」の一員になりたいと思います。私が定年になるまでに計画しているプロセスはそれで終わりではありません。ゆくゆくは海外派遣を経験した上で、いつの日か、私を担当してくれた広報官のようになって多くの人たちに自衛隊を知って、理解してくれるように広報の職につきたいと思っています。

(航空自衛隊入隊予定者、井上昂規くんより神奈川地本厚木募集案内所へいただいたお手紙)



エアパークを見学する井上君